

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第 61 号

平成 24 年 7 月 31 日 発行
三 翠 化 学 会
津市 栗真町屋町 1 5 7 7
三重大学院院生物資源学研究所内
電話/津 (059) 232-1211
振替/名古屋 9-59345
印刷/株式会社 あるむ
TEL(052)332-0861 大 8 長谷川 正一

平成二十四年度三翠化学会総会のご案内

久松先生のご講演も

平成二十四年九月八日(土) 午前二時三十分より受付二時開始 於三重大学生物資源学部

盛夏の候、会員の皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、恒例となりました二年ごとの総会を、三翠同窓会(親同窓会)の日にあわせて、母校(生物資源学部216教室)にて開催致します。ご多用のところ恐縮ですがぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

母校では、平成二二年の新学科体制発足より一巡りし、また学科再編の

動きがあるやに何と何とあります。同窓会組織が今後どうなっていくのか気もめるところではあります。今後の推移を応援しつつ見守りたいと考えております。

第五回三翠化学会関東支部交流会報告

神田のすし屋で開催、二四名の会員が参加



第五回三翠化学会関東支部交流会は、平成二四年二月二五日(土)一四時から、神田の「鮎処 夢春」で開催しました。従来は船堀のクラボ産学官プラザなどで開催していましたが、飲食店は初めての試みです。二階の座敷を貸切り、店長の配慮で四〇〇〇円、三時間飲み放題、あんこう鍋の設定で、勿論最後は鮎で締めです。

本日から小畑仁三翠化学会会長(大学第15回)に出席いただき、総勢二四名が出席しました。東海裕作副

第一三回三翠化学会関西支部交流会報告



仁先生、特別会員として三重大学名誉教授の熊澤善三郎先生、柏村直樹両先生に御臨席賜り、新大阪のホテルクライトンにて開催いたしました。

毎年に開催される本交流会も第一三回を迎える事ができました。ひとえに会員皆様方の暖かいご協力ご支援の賜物とこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

第一部は関西支部総会として、例年通り、岸田さん(大36)の司会進行により、開幕をいたしました。本年は未曾有の東日本大震災も発生し、我々会員の物故者に加え、震災により予期せぬ犠牲となられた方々に対しても黙祷を捧げさせていただきました。その後、小畑

近況報告も兼ねて話題提供をしていただきました。原さんからは三翠化学六〇号「挑戦」とおり、現役ですますお元気で活躍されておられ、また市川さんは闘病から快気された話などそれぞれ熱い思いを語っていただきました。その後小畑会長から三翠化学会の現状、情報誌発行の財政事情などの報告がありました。

最後に浅井副部長の指揮で「三翠応援歌」を大合唱し、次回の総会への出席を約して総会を終えました。

最後に、本誌を見て懐かしく思われる方もおられると思いますので、紙面を借りて今回の総会の出席者(敬称略)を紹介させていただきます。

岩田章(専門1)、原弘

部改定の提議があり全て承認となりました。また、本年は役員改選年度ですが、古橋支部長をはじめとして役員全員の留任を頂き、関西支部の発展にご尽力いただくことになり総会は滞りなく終了いたしました。

第二部は関西支部交流会の目玉でもある談話会です。古橋支部長の司会にて、特別講演として柏村直樹先生にお願いして、「福島の桃」の演題で東日本大震災による先生ご自身の支援体験を通じて非常に内容の濃いお話を伺いました。大震災被災者を支援する団体に参加され、特に福島の子供との交流、放射能対策としてのヒマワリや土壌分析、放射性セシウムや除染、原発の今後に至るまで、非常に幅広いご活躍と震災後の現状、今後の憂いを窺い知ることができました。極めて

話題に富み、全てをお伝えするには紙面が足りませんが、特に演題にある福島の桃は、これまで丹精込めてつくりあげ、ようやく軌道に乗り出した桃が、実際には問題ない事も検査で確認しているのに風評により全く売れなくなってしまう話などは、色々と考えさせられるものであります。

第三部は、お楽しみみの懇親会です。熊澤先生のご発声で乾杯、お酒も入った和気あいあいの雰囲気の中、お互いの近況を語りあったり、会員からのスピーチも頂いたりするうちにあつという間に時間が過ぎました。最後に中締めとして岸田さん(大36)の発声で応援歌を斉唱し、来年の再会を約束し、第一三回関西支部交流会はお開きとなりました。ご参加いただきました皆様、また支部連

第14回 三翠化学会関西支部交流会のご案内

日時:平成 24 年 11 月 17 日(土) 午前 11 時から
場所:ホテルクライトン新大阪
談話会特別講師(予定):杉崎護氏(大16)、平田秀彦氏(大17)

三翠化学の同窓生と楽しく語り合う絶好の機会であり、和気あいあいと絆に深まる交流会です。皆様もお気軽にご参加いただければと存じます。

(菊地 大40 記)

関東支部第一回ゴルフ大会を開催

晴れの初代チャンピオンは大15回の高島貞武氏

関東支部の初のゴルフ大会を平成二四年六月一日(金)、取手桜が丘ゴルフクラブ(茨城県)で開催しました。本コースはJR常磐線藤代駅に近い(車で五分)フラットなコースですが、池、クリーク、バンカーが随所に配置されており、撤まる大たたきするコースです。

事務局が五組を予約し大会を期待したのですが、予想外に出席者が少なく七名の参加となりました。しかし、予想外に汗ばむくらいの好天気に恵まれ老若各選手熱が入ったプレーを展開しました。新ペリアの代優勝者は長島貞武氏(大15回)で、in43・out46のgross89(ベスグロ賞)、net71でした。同grossの小島楯彦氏(大15回)はHACP13・2(ローハンデ賞)、net75・8で三位。準優勝はHACPに恵まれた高島幸輝氏(大12回)でした。プービー賞は浅尾由一氏(大19回)で、吉田吉明(水平賞・大18回)、東海裕作(大19回)各氏は若さ?か先輩に一目置かれた形となりました。因みにラッキーセブ賞は清水宣雄氏(大14回)でした。皆様ご苦勞様でした。

三翠化学会会員の交流をさらに深めるために引き続き開催します。原則、同じ



吉田 吉明記

今、私は

佐野秀人 (大42回)

昨年八月末、五年三月月の米国留学を終え、浜松医科大学医学部生理学講座助教として人生で始めて常勤の職(任期付ですが)に赴任し、間もなく一年が経過します。私は、三重大学在学中、栄養化学教室(故高橋孝雄先生、古市幸生先生、梅川逸人先生)にて脂質代謝の実験を行なっていました。京都大学大学院医学研究科に進学後、動脈硬化から血管生物学へと興味を拡がり、その後一貫してこの分野の研究を行ってまいりました。今回、日本でのポストドク時代の恩師である高倉伸幸先生(現大阪大学教授)の推薦もあり、私の実家(現在話題の浜岡原発周辺)に最も近い医学部である浜松医科大学の公募に応募し、採用されることになりました。私が所属する生理学講座は、血液の血栓凝固・線維素溶解の研究をしている研究室で、血管内で起こる出血や炎症という生体反応に注目しているという事で、微力ながらも私の経歴を活かせることができると考えております。特に私は線維素溶解(線

溶)系を調節する因子として Plasminogen Activator Inhibitor (PAI-1)に着目しています。PAI-1は血中に増加すると血栓を溶解せず、末梢の静脈血栓塞栓症(エコノミー症候群)や動脈硬化にも関わっており、また最近では脂肪細胞から分泌するアディポサイトカインの一つとして、糖尿病検査の一つのマーカーとして注目されているものです。また、幹細胞の微小環境にも重要であるとの報告もあります。最近、本学病院外来にて、致死的な出血症状を呈するとして通院していた患者さんが、世界で二例目のPAI-1遺伝子欠損症として報告されました。おもしろいことに、PAI-1遺伝子欠損マウスは出血傾向を示さないことから、ヒトとマウスにおいてPAI-1が関与する出血現象に相違が現れました。我々は、ヒトのPAI-1動態を詳細に調べ、近年話題のPAI-1細胞をこの患者さんから作成し(いわゆる疾患特異的iPS細胞)、血管を形成する細胞や脂肪細胞などに分化させ解析することにし

ました。浜松医大でもヒトのiPS細胞を扱っている研究者はほとんどおらず、何とか学内の倫理委員会を通すことができたところでした。現在、東大医科研にて患者さんからのiPS細胞をまさに作成しているところで、いずれは、自分の手で作成できるように、習得中です。国家プロジェクトとして流行りの技術ではあります。それが流されず、本流の研究を見据え、また医学部所属ならではの研究を進めていきたいと思っています。

着任早々、科研費の申請や、上記倫理委員会の申請等慌ただしく時間が過ぎ、特にこの四月から本学の講義消化器生理学計三コマと生理学実習、また近くの私立大学(常葉大学健康プロデュース学部)での非常勤講師(生理学週一コマ計一五コマ)等、あつという間の一年という感じでした。特に講義については、大学で講義をすることが初めてであるということ、所属している講座が生理学教室ということもあり、大学時代から受講したこともなく知識が乏しい生理学について講義をしないといけないという事で、現状について述べてきましたが、私の所属する生理学講座

は血液の凝固線溶系、特在线上の測定方法、機能解析等においては独自の方法を持つており、これをお読みの方々の製薬関係・食品関係の三重大学農芸化学OBの皆様、是非共同研究・開発等できればと思います(宣伝)。また、ここ浜松は機械関係の企業も多く、生体のイメージング等、医工学研究も盛んに行われております。このような環境の中、少し腰を落ち着けて研究・教育に取り組みたいと思っています。そして、農芸化学出身の医学部所属者として両方の良い点を生かせることができると考えています。



生物化学研究室 嶋林幸英先生を囲む会
2011年(平成23年)11月12日 三重大学生物資源学部

今、私は

板倉正司 (大30回)

私は昭和五十七年三月に農学部農芸化学科農産製造コースを卒業いたしました(当時担任は熊澤先生、専攻室は奈良先生)。同年四月にキユーピー(株)に入社し、早三〇年が経過した現在は商品開発本部市場調査部に在籍しております。主な仕事の一つとして、マヨネーズやドレッシングなどを実際使われているお客様の使

用状況や課題・要望などを調査し、商品開発の仮設・検証に繋がるデータを創り上げる業務を行っております。今まで知り得なかった事実を見出し、それが次なる新商品の方向性を決めることに貢献できるやりがいを感じております。

入社から現在までをあらためて振り返りますと、営業一筋で横浜、松山、東京

札幌など計一〇回の転勤を繰り返す中でお客様、お取引先様、そして弊社グループ社員の方々の出会いと仕事を通じて、学び成長させていただいたことに対して感謝の気持ちでいっぱいになります。

その背景には入社当時より先輩の皆様から何度も教えていただいた「社是社訓」があったからではと感じております。社是は「業業偕悦」です。「同じ志をもつ



生物化学研究室 嶋林幸英先生を囲む会
2011年(平成23年)11月12日 三重大学生物資源学部



写真は2012年5月に浜名湖畔の佐鳴湖周辺で行われた駅伝大会に、研究室で参加した時のものです。

生物化学研究室「嶋林先生を囲む会」

昨年一月二日、生物化学研究室同門会を二十数年ぶりに開催した。でもなぜタイトルが同門会でないのかは、現在の「分子細胞生物学研究室」の卒業生にどう対応すべきか、誰に話を持っていけばよいのか等々悩み、嶋林先生が退官された年度の専攻生、大41回までを対象としたので「囲む会」という名称になった。42回以降の卒業生の方には、この紙面をお借りしお詫びしたい。20数年ぶりと言う事で、住所録もなく、嶋林先生の生化学専攻生の住所録をお借りし、三翠名簿、奥村先生からの情報を突き合わせどうにか一七〇名の方に案内状を出し、四六名の方に参加いただいた。もちろん、田口先生、奥村先生にも参加いただき、二十数年ぶりの生化学の会を大いに盛り上げていただいた。

会は学部の大会議室で、幹事代表のあいさつに始まり、奥村先生に「学部、研究室の近況報告」と言う事で、生物資源学部の組織の変遷、旧農芸化学科との教員、組織の関連等の講演をいただいた。次に会場を生協「ばせお」に移し懇親会に入り、まず、杉本先輩(大6)の乾杯に続き、嶋林先生に「栗東での暮らし」と題し、退官から現在に至る色々な活躍の話やお元気な近況報告を話していただ



生物化学研究室 嶋林幸英先生を囲む会
2011年(平成23年)11月12日 三重大学生物資源学部

フランス会便り (大6回、昭和33年卒業)

川内、吉野(大6)記

平成三三年一月二〇日と二二日の両日、今回幹事・加納氏の故郷・長野県大町市にある葛温泉「かじか」でフランス会を開催しました。六回生は平成三三年中に全員が後期高齢者になりましたが、今回一四名卒業生二九名、物故者四名が出席しました。今年は日本各地で災害が頻発しましたが、幸い被災者や年度内の物故者もないことが判明し、喜びが合いました。恩師の嶋林先生の御出席を賜り、先生から近況報告、特に先生の人生観というか信念の程をお伺い

いたしました。田口先生は、一昨年の退官以降の近況報告、江上(大5)、伊藤(大10)の先輩諸氏等は当時の思い出を話されるなど、酒は進みに盛り上がった。時間も経過し、中締めと云う事で、川治先輩(修一)が、昭和四十年代初めの頃、岩本、嶋林、高橋三先生の指導による実験に野球に充実した大学生活の想い出を、そして、嶋林先生には是非ともお元気で長生きしていただくことをお祈りし締めくくられた。最後に西辻君(大40)の発声により応援歌斉唱をもって散会となった。尚、その後、奥村先生の案内で三翠会館の見学ツアーをおこなった。(杉崎大6記)

大9回 16回奈良クラス会



生物化学研究室 嶋林幸英先生を囲む会
2011年(平成23年)11月12日 三重大学生物資源学部

平成24年5月16~17日、坂東氏の幹事のもと、奈良にてクラス会が催されました。初日は山代屋にてフランス料理の宴会を行い、各自の近況報告、次回の担当者決めなどを行いました。翌日は奈良駅よりボランティアガイドさんの案内により出発し、興福寺にて阿修羅観音の拝観、春日大社、若草山、二月堂、東大寺を午前中にウォーキングにて散策しました。ボランティアガイドさんはなかなかユーモアのある方で、歩き疲れを忘れさせてくれました。昼食は、奈良駅前の月日亭にて茶粥を堪能し、幹事への感謝の拍手、そして2年後の再会を約束して散会しました。